

(会議の経過) 第2回宍粟市スポーツ推進計画策定委員会

発言者	議題・発言内容
事務局	<p>※開会</p> <p>皆さんこんにちは。本日は委員1名より欠席の連絡をいただいています。他の委員の皆様はおそろいですので、ただいまから第2回宍粟市スポーツ推進計画策定委員会を開会いたします。年末を控えてお忙しい方ばかりですが、日中の会議にも関わらず多数ご参加いただき、ありがとうございます。本日はお手元に次第と追加資料としてスポーツ推進計画の市民アンケート調査について前回の会議ではアンケート調査を進めるということをご説明いたしましたが、製本して市民の方に送付したアンケートを準備させていただきました。それから障害福祉課より心のバリアフリー展についてのご案内があります。市役所市民ロビーにて展示しておりますので、会議終了後お時間がありましたら、ご覧いただければと思います。また本日は、兵庫教育大学の先生からスポーツ×SDGsについてご説明をいただき、意見交換の時間も設けていますので、そのレジュメを用意しています。それでは次第に沿って始めます。</p>
委員長	<p>※あいさつ</p>
事務局	<p>それでは、協議事項に移ります。なお、本日は傍聴者がおられますのでご報告させていただきます。それでは委員長より進行をお願いいたします。</p>
委員長	<p>・市主要計画のスポーツ関連部分について 議事に入ります。(1)市主要計画のスポーツ関連部分について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>※市主要計画のスポーツ関連部分について説明。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。質疑応答は、中間で行います。</p>
委員長	<p>・市スポーツ施設等の概要、利用状況について (2)市スポーツ施設等の概要、利用状況について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>※市スポーツ施設等の概要、利用状況について説明。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p>
委員長	<p>・市の取組状況と評価について (3)市の取組状況と評価について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>※市の取組状況と評価について説明。</p>
委員長	<p>・市の関係団体の活動状況について (4)市の関係団体の活動状況について事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	※市の関係団体の活動状況について説明。
委員長	・近隣自治体、民間との協定・連携状況について (5) 近隣自治体、民間との協定・連携状況について事務局から説明をお願いします。
事務局	※近隣自治体、民間との協定・連携状況について説明。
委員長	ありがとうございます。
委員長	・市民アンケート分析状況について 市民アンケート分析状況について事務局から説明をお願いします。
事務局	※市民アンケート分析状況について説明。
コンサル	※説明
委員長	(1) から (6) まで説明をいただきました。質疑、応答の時間をとります。お気づきのことやご意見がありましたらお願いします。
委員	スポーツの概念についてお伺いします。体育協会を組織の中に入れてありましたが、これは基本的に競技スポーツになると思います。競技スポーツ以外にも体を動かすことは多くあり、例えばウォーキングなどの自分でやっているものがあると思います。委員の皆さんはこのあたりをどのように思っておられるのですか。
事務局	後期計画で触れていますが、大きな柱建てとしては幅広い年齢層の方が体を動かすということも含めて行っていただく生涯スポーツと、もう一つは競技スポーツという大きく2本立てで捉えています。この2本の柱を含めて生涯スポーツという考え方でいます。この計画でのスポーツの概念は両方が含まれていると捉えていただけて結構です。
委員	例えば、いきいき100歳体操に参加している高齢者は多いですが、こちらもスポーツと言えるのですか。
事務局	私たちは健康づくりとして身体を動かしていただくことも含まれると考えていますが、明確に整理ができていません。福祉施策で取り組まれているものも含めてこの委員会で整理ができればと思います。大局的には生涯スポーツに含まれると考えますが、この委員会で相談させていただきたいと考えています。
委員	転ばない体を維持することが目的になると、いろいろなスポーツ団体がさかれている準備運動をしてから身体を動かし、運動が終わって歓談をして帰るということは同じだと思いますので、私の目からするとスポーツだと思います。

委員	<p>多くの計画でスポーツをどのように捉えるかという定義が計画の最初に書かれています。一般的に研究レベルでもそうですが、狭い意味では一定のルールの枠組みの中で競争や達成といったものを中心に行う運動だと捉えられています。しかし、行政がいろいろなところで「スポーツを推進しよう」と言った場合は、個人で健康のために行うようなものも含めてスポーツとして広めに捉えています。世界基準でもそのようになっています。今回の市民アンケートでは、スポーツや運動とあえて書いてありますので、その中にウォーキングや体操も含まれています。狭い意味ではスポーツではないという捉え方もありますが、町や市で問題にしたいことは、個人や集団も含めて体を動かす、地域づくり、まちづくり、人との繋がりづくり、健康づくりという観点から考えると、今のご意見でよいと思います。</p>
委員	<p>超高齢社会の宍粟市では、競技スポーツやラジオ体操などの生涯スポーツも入ると思います。以前は障害者のスポーツ大会などもありましたが、現在は障害者のスポーツ大会は福祉関係者だけで行って、健康増進の担当者が委員の中にいません。私は希望して入りましたが、もし私が入っていなければ健康増進に関する担当者がいませんでした。そのような部署の方が委員会に入っておられれば、健康増進に関する意見も出てくると思います。特に宍粟市は高齢社会なので、そのあたりをもう少し推進していただきたいです。ハイキングや自転車競技はおもしろいようですが、自己評価で満足できていないとなつてますので、宍粟市の地形を考えるのであれば、もう少し評価してほしいと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。他にありませんか。</p>
事務局	<p>健康づくりや保健に関すること、学校教育の部活動のことなどいろいろなご意見をいただきたいと思っています。ここであがってきた意見については集約をして、主要計画や個別計画も確認しながら、各部局の担当課とも意見交換をして、こちらの会議に出していきたいと思っています。</p>
委員	<p>私は健康体操に関わっていますが、宍粟市では400人ほどが健康体操を行っています。3、4年前に健康体操を行っている方々に健康習慣の実態調査を行いました。その結果、健康体操をしている方々の6割程度の方に健康習慣がありましたが、一般の方の健康習慣は2～3割ですので、クラブなどに所属していると健康増進の意識が高いと思います。そのような報告も市にはしていますので、参考にさせていただきたいです。</p>
委員	<p>私の感覚では、体育協会の関連が競技スポーツに関すること、スポーツ推進室の関連が体を動かすこと、それから健康増進に関することといった3つの組織による動きがあると思います。それらの弱いところが連携や繋がりができていないことではないかと思います。それぞれの部分のアピール力も弱くなっていると思います。私はスポーツ理事から携わってきましたが、基礎スポーツと健康長寿へとテーマを掲げています。基礎スポーツを健康長寿へと変えてしまうと宍粟市のスポーツは高齢者向けになってしまうので、健康長寿への「へ」の</p>

委員	<p>部分が、体を動かすことを通して、そのようなことに繋がっていくとよいと思って活動しています。関連性や繋がりができればよいと思っています。</p> <p>国や県などの大きな単位では、生涯スポーツと競技スポーツを柱にして並行して同じ位置付けで行っているところが多いです。自治体の規模によっても異なりますが、私が関わっている市では、スポーツ推進計画を生涯スポーツとまとめているところもあります。生涯の中で子ども世代や個人によってはスポーツを競技的に行う時もありますが、市の理念としては、長いスパンの中で自分の健康に向き合っていくことが大切であるため「私たちの市では競技スポーツはしなくてもよい」としています。そういう意味では先ほど3本の柱と言われましたが、今までの並列的な2つの分け方ではなく、宍粟市の選択としてもう少し特色的に年齢構成や人口構成を踏まえて計画していくことも一つだと思います。理念は重要なのでこれから議論していけばよいと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。小学生や中学生の頃は体操が大嫌いで、とりあえずボールを触りたいし走りたいし動かたかったです。しかし年齢を重ねてくると体操はすべてに通じていて、ラジオ体操を一生懸命にやることは体によいことだということがやっとわかりました。また、先日東山に行くことマウンテンバイクがたくさん置いてあるので「えっ」と思ったのですが、いろいろな人と話をすると、宍粟市の地の利を生かしてサイクリング人気が高いということでした。多くの経験をされてきた方がここにはたくさんおられますので、いろいろなことをいろいろな視点で見させていただきながらご意見をいただければと思います。広い意味で意見が出ていますので有り難いと思っています。</p>
委員	<p>社会体育施設利用者実績表の資料をいただきましたが、コロナの影響で令和2年は少なくなります。令和元年と比較すると、山崎スポーツセンターも総計では横ばいで増えていません。海洋センターも減っています。千種B&G海洋センターの12,300人はよい傾向だと思います。スポニックパーク一宮も令和元年から比べると増えていますが、スポーツ計画を推進している割には増え方が少ないような気がします。施設の利用状況を見ても、横ばいか減っています。この統計を見ると計画倒れになっているのではないですか。</p>
事務局	<p>宍粟市の登録団体制度で子どもたちの活動はすべて無料になっていますが、無料であった柔道教室、剣道教室、バレー教室といったものがすべて廃部・休部になっていることと、千種B&G海洋センターも少女バレーが開催されたりされなかったりしています。山崎スポーツセンターも6チームあったものが4チームに減っていて、子どもたちのチームがかなり減少していることが利用者減の要因になっていると思われます。高齢者に関しては65歳以上の方は利用料が無料であることが浸透してきたので、温水プールなどの利用は増えています。人気のサッカーチームの参加者数も減ってきていますので、子どもたちのチーム数が激減していることが一つの要因であると分析しています。</p>
委員長	<p>中学校のクラブ活動に関して、子どもの参加状況はどうなっていますか。</p>

委員	参加状況は変わりませんが、生徒数が減ってきているため一つの学校で一つのチームをつくるのが難しく、現在は合同チームなどもある状況です。部活動の種目も減ってきています。
委員長	指導者に関してはどうでしょうか。
委員	指導者のこともありますが、一番大きなことは生徒数の減少だと思います。
委員長	部活動を社会体育に移行するという話もありますが、実際には進んでいない状況だと思います。
委員	今の話は宍粟市に限らず悩ましいところで、部活動も含めて子どもたちのスポーツ参加の仕方を考えないといけないと思います。チームをつくって一定のエリアの中で切磋琢磨していくというスタイルは大人ではできますが、現実には距離の問題もあり子どもでは合同さえも難しい状況です。最近ではフットサルコートに1人で来て、そこに来たメンバーでプレーすることが増えています。今までの私たちからすると、固定メンバーが集まってプレーすることが当たり前でしたが、子どもたちのスポーツへの参加のさせ方や企画の仕方を相当変えていかないと、子どもの参加率は上がらないと思います。学校の場合は一定のエリアがありますが、市単位で考えるとチームが減っていく現象は間違いないと思います。何らかの形で運動する機会を保障してあげたいと思うと、発想を変えないと無理だと思います。チームをつくっていただくサポートも補助もしますといったことが昭和のスタイルでしたが、この後のサスティナブルの話とも関わってきますがそのスタイルは限界だと感じます。
委員長	今の話は体育協会も切実な問題です。例を挙げると、軟式野球チームは私たちの若い頃は市内に50~60チームありましたが、現在は大幅な減少によって、山崎スポーツセンターでも大会が開催できません。他の市町でも定期的に活動しているのは数チームで、定期的に活動しているチームが何十チームもあった時代を、こちらにおられる多くの方は経験されたと思いますが、現在は夢のまた夢です。今がそうなので、今言われる通り、子どもたちは当然です。そのような現実が大人の社会でも起こっているのです。体育協会の大会の参加者が減っていることに、いつも驚いています。チームをつくるといった今までの概念ではなく、健康を維持するためにどうやればよいのかという基本に戻って考えていかないといけないと思います。垣根をつくっていても話にならないと最近つくづく思います。
委員	私は昭和26年生まれで団塊の世代の最後になります。私たちが後期高齢者になるときに、要介護者が最大になるという2025年問題があります。これをなんとか乗り切るために厚生労働省を中心に取組を行ってきましたが、団塊の世代が最大になった後は急激に減っていきます。減った時にどのようにしていけばよいかということを経験していないですが、その時に何かよい案がありますか。

委員	まちづくりの会議にも参加しますが、答えが見つからないのが正直なところで す。
委員	体操競技の最高峰の内村選手が行う体操と私たちが行う体操も、体操という言葉 で括れると思います。ラジオ体操でも、テレビで行っている体育大学で勉強 したような人のラジオ体操と私たちが行うラジオ体操ではかなり差があると 思います。どこからがプロフェッショナルなのかと言われても、連続していて 「ココ」と切れないようなものが片一方にあり、草野球とプロ野球と明らかに 違いがわかる競技もあります。そのような中で私たちが話し合うことは競技ス ポーツなのか、競技スポーツ以外のものも含めたものかという後者になると 思います。
委員	種目の垣根を取り払わないといけないというご意見がありましたが、宍粟市の 状況を考えると捉え直しをしないといけないと思います。当然いきなりは無理 ですが、そのことを意識しながら 10 年後にはこのように進んでいくといった ことを計画に盛り込む必要があります。これまでの計画は事業をこなすことが 主になっていましたが、10 年後のこのような姿に向かって宍粟市のスポーツ や運動環境等すべてにおいて「努力していきましょう」といった具体を計画で 示していければと思います。
委員	子どもの数が減っているという話でしたが、宍粟市の 10 年後の中学生は何人 ぐらいになりますか。
事務局	統計データはありますが、今は即答できません。
事務局	宍粟市全体の出生者は、近年は 200 人を切っています。
委員	そうすると 3 学年で 600 人になりますが、学校数は何校になるのですか。
委員	10 年後に何校あるのかわかりませんが、現在は 7 校あります。北部の学校はお そらく 1 学年 10 人程度、全校で 30 人程度になると思います。
委員	それに向けて対策をとらないといけないが、競技性がないと盛り上がらないと いうことは事実だと思います。
委員	特に小学生や中学生などの若い頃はそうでした。
委員	チームで競い合うということが難しくなっています。
委員	「健生会」では健康体操の指導ができるように、話し方、基本的な体の動かし 方などを勉強して、なおかつ実技ができて、実際に地域に貢献できる心構えの ある人を指導員にしています。高齢者の介護予防の意味からも、例えば一宮町 黒原からこちらに来るには遠いし、車の運転もできないといった場合は、指導 員が家まで行って一緒に体操をしています。そのために 2 人だけの教室、4 人

	<p>だけの教室、5人以上の集団教室などメニューをたくさんつくっています。しかしそれを充実させるためには指導員をたくさん養成しないといけませんので、私も指導員育成に一生懸命です。指導員になるためには、社会貢献できる人等の条件があり、「1～2年教室に通って指導できるようにしましょう」と言っているのですが、そのような人が少ないです。私たちは75歳が定年ですので、60歳で指導員をめざしても、独立して指導できるのは5～6年です。50代から指導員になってもらい、地域に出て健康づくりをしてもらうことが私の今の目的です。</p>
委員	<p>競技スポーツで競わせなくても、指導者になるという目標を与えれば、皆こちらに向かって一緒に活動するということですか。</p>
委員	<p>指導員になると会費制で交通費程度の有料ボランティアとして活動できます。それから、もっと活動できる人は、指導員としてパートとして働く程度の収入を得ることができる人もいますので、2段階構えになっています。普通の指導者は介護保険をもらわないような元気な人のところに行って指導し、65歳程度で車に乗れてもっと活動できる人は介護保険をもらうような人の指導をお任せするようにしています。宍粟市の介護保険料は兵庫県下でも5番に入る程高いはずですが、できるだけ介護給付費を少なくしないといけないと思います。</p>
委員	<p>介護保険料を決める委員会の委員長もしていますのでありがたい意見です。人口、収入の比率によっても変わるので、単に健康状態だけという問題ではないのですが、健康状態が上がることによって確実に下がりますので、よろしく願います。</p>
委員	<p>特に男性は競技スポーツが大好きです。健康体操のように自分の可動域がどの程度広がったかといったことは、どちらかというと男性は苦手です。男性は75歳を過ぎた頃から手足が不自由になったら困るということで参加されます。女性は60歳ぐらいから参加されています。</p>
委員	<p>10年先を見ていかないといけない。</p>
事務局	<p>今年中学校に入学した子どもは337人、今の2歳児が中学に入学する10年後は178人です。</p>
委員	<p>中学校は1つでよいことになります。</p>
事務局	<p>出生数は波賀10人以下、千種10人以下、一宮20人以下、あとはすべて山崎になります。</p>
委員	<p>子どもの頃から運動習慣を身につけて中学で運動ができる体力をつけて、大人になってもスポーツをして、高齢者になっても転倒予防の運動をするという動機づけや組織づくりに関して計画するということですか。</p>

委員	今、生徒数を聞いてびっくりしましたが、まさに 10 年後に備えていかないと いけないと思います。すぐに結論はでないですが、今回の計画でそのことを臭 わせて動かないといけないと思いました。従来の競技スポーツと生涯スポー ツの 2 部法で表記するのではなく、宍粟市の場合は違う出し方をしてもよいの ではないかと思います。基本的には皆さんのご意見のように運動する環境をい ろいろの場で適切につくりたいということだと思います。
委員長	おぼろげながら 10 年先が見えてきました。高齢者が多くなる事実に対してス ポーツ面はどうするのか、それから子どもが減ってくるが、発達段階で一番激 しい時期に体操ばかりしていて自分たちで切磋琢磨するようなことがなくて よいのかということが体育協会の立場で感じるところです。スポーツ推進の側 から言うと、生涯体育としての場所を提供し、たくさんの人に参加してもら うようにしたいと思いますが、健康に関して「自分の健康は自分で守る」と言 い切れる人はチームに参加せず、一人で歩けばよい、走ればよいということ です。そのような人たちのためのも、これまので大きなグラウンドを整備す るということではなく、環境や場を整えていく必要があると思います。意見 を聞いてい る中でひらめくことがあれば意見をいただき、次につなげたいと思います。
委員長	(7) スポーツ×SDGs について それでは事務局にバトンタッチして、進行をお願いします。
事務局	本日はスポーツ×SDGs を取り上げています。事前に宍粟市の広報でSDGs の特集を組んだ 4 月号に記事を出しています。これは宍粟市総合計画、地域 創生総合戦略にも反映していて持続可能なまちづくりを市民とともに計画的 に進めようとしています。さらにいろいろな個別の計画も関連付けをしながら 皆さんと一緒に取り組むような意識を醸成していきましようということで取 り上げています。本日はお手元に国連のスポーツの関係でSDGs と絡めたス ポーツの関わり方というようなことのホームページにも掲載された資料をお 配りしています。委員の皆さんにもこの視点に立って現在取り組んでいるこ とやこのような考え方が大切であるといったいろいろなご意見をいただく会 にしてはどうかということで意見交換を進めていただければと思いますので、よ ろしく願いいたします。
委員	(説明)
委員長	(8) 意見交換 SDGs についてお話しいただいたことや、お話を聞かれて私たちはすでにS DGs やっているのではないかという感じを持たれた方もおられるかもしれ ません。
委員	10 年後の中学生が 178 人と聞いて驚いています。これからも中学生に競技ス ポーツができる環境づくりをしておかないと、波賀、一宮、千種に住む子ども

	<p>たちは困ると思います。合同チームや車で送迎といったことが保障されるような宍粟市の計画にしてほしいと思います。高齢者についてはある程度進むが、子どもの問題が気になるので保証してほしいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>特に、目標 11 の地域のところに関して、持続可能なところで、そうだと思うのはやはり強靱でないといけなくて、もろくて固くて立っているというのはポロっともげるようで、柳のようにしなやかに受け流すことが必要であったり、たとえ中学校入学者が減ったとしてもスポーツの競技性であるとか、体力の維持であるとか、それを守り抜くという計画を何年も前から立てていたということ、このまちにいてよかったと思ってもらわないと宍粟市に残る子どもの数は減っていきます。一つ教えていただきたいのは小学校の頃よりこのようなことをしていると、競技スポーツに興味を持ち運動に参加したいと思うような事例などがありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>子どもたちは自分たちで移動できないので、今見えているところだけでは無理だと感じます。今までは「ここで教室やるので集まって」という形をとっていましたが、むしろそういうニーズがあるところに出前に行って、当然公平性も必要なのでトータルスポーツというようなネーミングで学校の体育授業ではできない種目を皆でつくって、週に一回でもよいので巡回で、土日で難しいようであれば平日の学校が終わった後でもよいと思います。発想を変えた方がよいと私は思っています。もちろんそのためにはどのような指導者が必要なのか、今度は逆に子どもが動いてくる時や部活動では、他の市町では親の手を借りられないのであればコミュニティバスを子ども中心に動かしてもよいのではないかといい発想も出ていました。私は子どもたちにと考えると、少ないのであれば一つの種目に特化しないほうがよいという立場です。人数が多いと分かれることは可能ですが、少ないのであればいろいろな種目を土台として経験させてあげるシステムをつくってあげるしかないかなと思っています。その中で今度はご家族でニーズがあるところは自分たちでどこかに行かないといけなく、一つに特化するということは今の時代に合わない気がします。部活動の場合は、広めにやりづらいところもわかりますし、だからこそ学校の枠も少し意識しながら広めに地域などで育てる必要があるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>人数が少ないのであれば、一人がいくつもの競技に参加するということにすれば全体としてはチームが成り立つのではないかと思います。ある部活動の顧問の先生に話を聞くと、すぐに駄目ですという返答が返ってきました。その先生は私を慕って入部してくれた子どもに対して一生懸命教える、子どもたちもそれに応えて成長していく、体の成長と心の成長を見守るのが私は重要と考えているので、いくつもの部活に参加するというのは盛り上がらないということでした。</p>
<p>委員</p>	<p>考え方はいろいろあります。部活動を担当していると、指導者は責任をもって技術も体力も心の成長もさせていきたいというのが本音だと思います。現状を考えるともっと違う方法も考えないといけないと思っていますが、どうしてい</p>

	けばよいかということについては答えが出てこないと思っているところです。
委員	学校のクラブ活動は教育活動ですか。
委員	教育活動の一部として認められていると思います。
委員	学校では体育の授業があり体育の授業で心身を鍛えるというのはある程度完結していて、それ以外の部分でクラブ活動があるという考え方が正しいのか、クラブ活動も体育も含めひとつの教育の場であるという考え方が正しいのですか。
委員	部活動は文化部もあるので、皆が運動しているわけではないので、体育の授業と部活動は別です。
委員	分けて考えるのが妥当。
委員	子どもはそう思っていないかもしれないです。
委員	一人の生徒が部活動を掛け持ちするとことでチームのメンバーを確保することはどのように思われますか。
委員	どこに目標を置くのが難しいところです。運動を好きにさせる、それから将来、高校でいろいろな部活動に入るための準備期間としてとらえるしかないと思います。それで子どもが満足するのかという疑問なところはあります。
委員	先日の当番医の時に、中学生以上の野球のクラブチームの子どもがケガをして病院に来ました。保護者が付き添っていましたが、1週間ほど休むように言いましたが「それでは高校のスカウトに見てもらえないので休めません」とかなり怒っておられました。これはスポーツとして行き過ぎではないですか。少なくとも学校スポーツでは問題だと思います。
委員	中学生でも社会体育の分野で野球やサッカーに多くの生徒が行っています。そこに行くと高校でも続けてやりたいという生徒も増えてきています。子どももそうですが保護者もそのような望みを持っておられると思います。
委員	学校教育に関わる問題ですのでどのタイミングで議論するかということも問題ですし、指導のあり方や運営の仕方もいろいろな角度から知恵を絞って宍粟市としてのベターを考えていかないといけない重要なテーマの一つだということをお今日は認識しておけばよいと思います。
委員長	いかがでしょうか。いろいろな方向が話し合いの中で出てきていると思います。話を詰めていきたいと思うのが人間の常ですが、いろいろな人の意見を聞き、回を重ねながら考えていきたいと思っています。体育協会ではオリンピックと違って、普段子どもたちに指導している体育協会の指導員が一つの会場に集

	<p>り、子どもたちがやってみたい種目をいくつも体験するという事業を行っていますが、そこに参加している子どもたちがとてもいきいきとしていたので、そのようなこともあり得るのかなと思いました。ただ、先程の保護者の話のように親が選ぶのではなく、最終的に選ぶのは子どもであってほしいと思います。それでは進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>これまでは意見交換を中心に進めてきましたが、次回の会議は、市民アンケート結果について分析を含めてお示しできると思います。アンケート結果のとりまとめができた段階で、事前に委員の皆様を送付させていただきます。</p>
事務局	<p>・次回日程 (候補日を提案) 1月27日木曜日 13:30 北庁舎で予定したいと思います。</p>
課長	<p>それでは、次第4閉会に進みます。</p>
副委員長	<p>※あいさつ</p> <p>※閉会</p>

* 発言者の表記は、「委員長」、「副委員長」、「委員」、「事務局」、「コンサル」とする。